

20/01/20

## 2020 年、年頭のご挨拶

新年、おめでとうございます。皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

### 1. 北埼玉吸入療法連携会の現況

おかげさまで、北埼玉吸入療法連携会は、前身である熊谷吸入療法連携会も含め、今年で設立7年目を迎えることができました。設立時、私たちは「誰もが簡便に正しく吸入指導ができる」ことを目標に、①吸入手技指導の標準化（マニュアル化） ②病薬連携で使用する資材の標準化 を図り、必要な各種資材を作成しました。実際に運用し、データ収集と論文化（Respiratory Medicine,123(2017),110-115）も経て、現在は当会のホームページ（<http://kumagaya-ph.or.jp/renkei/main.html>）でこれら資材を広く公開するに至っています。また、当会の位置する埼玉県北部：熊谷市・東松山市では、これら資材を用いた定期的な（年2回）吸入指導講習会も開催しています。

2017年度からは、埼玉県内の他地域の吸入療法関連団体と協働し、上位団体としての埼玉吸入療法サポートネットワークも立ち上げました。同ネットワーク独自の吸入療法指導者としての資格制度「埼玉吸入指導マイスター」認定制度

も開始し、埼玉県各地域の医療事情を踏まえた指導ができる吸入手技指導者の育成を図っています。これまでに34名（23施設）のマイスターが誕生し、希望者はホームページ上で紹介しています。

## 2. これからの吸入手技指導の発展に向けて

近日の医療の高度化と患者さんの高齢化は、患者さん個々人の病状と個性にかなった医療：personalized medicine の実践を求め始めています。すなわち、患者さんの病状に応じた適切な医療をするのは当然、患者さん個々人の嗜好やライフスタイルにまで踏み込み、理想とする医療を「オーダーメイド」で提供する時代が到来しつつあるのです。吸入療法も例外ではありません。吸入療法の成功のポイントは、1：患者さんの病状に則した適切な薬剤を選択し 2：患者さんに適切な吸入手技を習得させ 3；患者さんの服薬遵守を阻害しうる嗜好・ライフスタイル上の問題が生じないように配慮する ことです。この中で、患者個々の嗜好やライフスタイルに配慮して治療を個別に調整する＝オーダーメイドすることは、長きに続く吸入療法を成功に導く上で、非常に重要なポイントです。

しかし、こうした通常の吸入療法の上をいく「オーダーメイド」な吸入療法の提供には、非常に手間がかかります。効率よく提供するにはどうするか？答えは、「連携」にあります。これまでの常識であった、患者さんに対し単独の医療者や医療施設で対応する「自前主義」を離れ、医師・薬剤師・看護師や病院・診療所

など多職種多施設が円滑に連携することが必要です。当会では、吸入療法の成功のカギは、複数の医療者・医療施設が「one team」となって、患者さん個々の吸入療法をオーダーメイドしていくことにある、と考えています。これからも、個別化医療の進展を見据えながら、必要な資材を作成・提供しつつ、実際の運用を通して地域医療に貢献したく考えております。



(2019 年末幹事会にて。新幹事含む)

最後に、当会の活動に惜しめない賛同と協働をいただいている、熊谷薬剤師会、東松山薬剤師会、埼玉県立循環器・呼吸器病センター薬剤部の諸先生皆様には、心から感謝申し上げます。また、当会ホームページにお越しいただきました皆様におかれましても、益々のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。2020 年も、皆様のご期待に応える、皆様に貢献できる団体であるよう日々精進してまいります。引き続き、よろしくお願い申し上げます。

（文：北埼玉吸入療法連携会会長

循環器・呼吸器病センター 呼吸器内科 副部長 高久洋太郎）